

キク科 コゴメギク属

ハキダメギク (掃溜菊)

Galinsoga quadriradiata Ruiz et Pav.

自生環境

道ばた、畑地 など

原産地

熱帯アメリカ

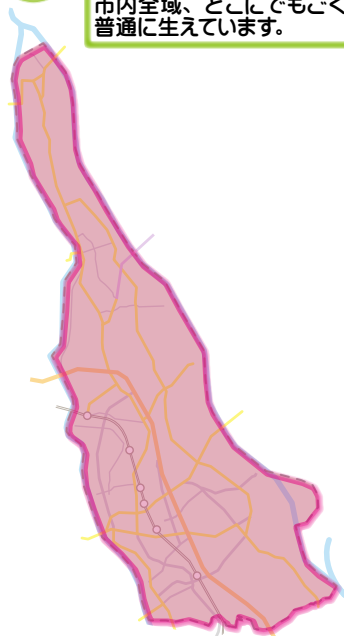
予想される被害



環境適応力、繁殖力ともに強いいため、いたるところに生えています。気温さえ確保できれば通年開花可能なため、ビニルハウス内で大繁殖して農業被害をもたらすこともあります。

市内の分布状況

市内全域、どこにでもごく普通に生えています。



特徴

- ★ 熱帯アメリカ原産で、世界じゅうに広がっている 1 年草です。日本には大正時代に渡来したと推定されますが、よく似た仲間のコゴメギクとの混同もあり、あまりはつきりしません。国内ではハキダメギクが圧倒的に多く、市内でもハキダメギクが優勢ですが、木間ヶ瀬地区などコゴメギクが目立つ場所もあります。
- ★ 世代交代のサイクルが早く、発芽から 1 ヶ月ほどで開花・結実できるようになります。また一定の温度が維持されれば、季節に関係なく年じゅう開花・結実が可能で、市街地や温室の中などでは通年発生しています。
- ★ 小さな花が多数集まって一つの大きな花のようになっています。外側に白い舌状花がふつう 5 個ずつつきますが、数は変動します。果実は綿毛がついており、風であちこち飛ばされていきます。

発見場所が悪かった

ハキダメギクは牧野富太郎博士の命名で、最初に発見されたのが世田谷（東京都）の掃溜めだったことにちなむと言われます。掃溜めとは、いわば庭のごみ置き場で、落ち葉や剪定枝などを掃いて溜めおく場所のことを言います。ただ、文献をいろいろ調べると、当時はハキダメギクとコゴメギクの2種が正しく認識されていなかった可能性もあり、真相はよく分かりません。



道ばたや畑にたくさん生えている



霜をかぶったハキダメギク。霜が降りるまで咲き続ける



舌状花

舌状花と筒状花がいくつも集まって、ひとつの花のようになっている

筒状花

舌状花



タネには幅の広い綿毛がついている



茎には毛がたくさん生えている



葉の縁はギザギザが目立つ

わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

